

演題番号：A4

黒毛和種繁殖2農場における子牛のкокシジウム症に対するジクラズリル製剤とトルトラズリル製剤の投与効果の検討

○中道 藍, 西崎 悟, 笠井一人, 三浦勇志, 山本卓哉, 是枝明博

兵庫県農業共済組合 但馬家畜診療所

1. はじめに：近年、牛кокシジウム症の発症予防とともに治療にも使用できるジクラズリル製剤が上市されているが、国内で黒毛和種牛に対する効果についての報告は少ない。今回、ジクラズリル製剤とトルトラズリル製剤の投与効果について検討した。

2. 材料および方法：試験期間は2018年5月～2019年12月、供試牛は管内の黒毛和種牛繁殖2農場(A農場：母牛約120頭飼養、B農場：母牛約25頭を飼養)で、出生した子牛(A農場59頭、B農場29頭)を用いた。供試牛に対してジクラズリル製剤(D剤)およびトルトラズリル製剤(T剤)を以下の区分のとおり経口投与した。試験(1)は生後2週～3週齢未満にD剤(D2)およびT剤(T2)を投与した群、生後3週～4週齢未満にD剤(D3)およびT剤(T3)を投与した群に4区分した。試験(2)はT2に加え3週後にD剤(T2D5)、T3に加え3週後にD剤(T3D6)、T2に加え4週後にD剤を投与した群(T2D6)に3区分した(T2D6はA農場のみ)。調査項目は薬剤投与後9週齢までのкокシジウム症発症率、薬剤投与後発症日数とし、診療カルテより調査した。

3. 結果：試験(1)においてA農場では、発症率はD2群

50.0%、T2群30.8%、D3群50.0%およびT3群14.3%、薬剤投与後発症日数はD2群 35 ± 14.6 日、T2群 48.5 ± 15.5 日、D3群 30.3 ± 17.2 日およびT3群53日であった。B農場では、発症率はD2群57.1%、T2群28.6%、D3群66.7%およびT3群33.3%、薬剤投与後発症日数はD2群 17.8 ± 7.5 日、T2群 60 ± 2.8 日、D3群 31.8 ± 22.5 日およびT3群55日であった。試験?においてA農場では、発症率はT2D5群11.1%、T3D6群42.9%およびT2D6群40.0%、薬剤投与後発症日数はT2D5群45日、T3D6群 56 ± 6.2 日およびT2D6群 41 ± 8.5 日であった。B農場では発症牛はみられなかった。

4. 考察および結語：今回の調査では、2農場ともにT剤の方が発症率は低く、薬剤投与後発症日数も遅いため、кокシジウム症発症予防により効果的であると考えられた。加えて、T剤とD剤を組み合わせることで発症予防効果が高まる可能性も示唆された。今後は、再感染抵抗性や薬剤耐性も考慮した予防プログラムを検討する必要があると考えられた。